

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課

担当課長名：奥村 康博

事業名 一般国道497号 <small>まつうら さざ</small> 松浦佐々道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局				
起終点 自：長崎県松浦市志佐町浦免 至：長崎県北松浦郡佐々町沖田免	延長 19.1km					
事業概要 西九州自動車道の一部を構成し、九州西北部地域の地域経済の活性化、高速定時性の確保等に寄与するとともに、北松地域の唯一の幹線道路である国道204号の代替機能確保を目的とした事業である。						
H26年度事業化	H25年度都市計画決定 (H一年度変更)	H27年度用地着手	H28年度工事着手			
全体事業費 約907億円	事業進捗率 約14% <small>(平成31年3月末時点)</small>	供用済延長 0.0km				
計画交通量 10,100～13,500台/日						
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C <small>(事業全体)</small> 1.04 <small>(残事業)</small> 1.3 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 607/770億円 事業費：569/732億円 維持管理費：38/38億円 </td> <td style="text-align: center;"> 総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 804/804億円 走行時間短縮便益：688/688億円 走行経費減少便益：81/81億円 交通事故減少便益：34/34億円 </td> </tr> </table>	B/C <small>(事業全体)</small> 1.04 <small>(残事業)</small> 1.3	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 607/770億円 事業費：569/732億円 維持管理費：38/38億円	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 804/804億円 走行時間短縮便益：688/688億円 走行経費減少便益：81/81億円 交通事故減少便益：34/34億円	基準年 令和元年	
B/C <small>(事業全体)</small> 1.04 <small>(残事業)</small> 1.3	総費用 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 607/770億円 事業費：569/732億円 維持管理費：38/38億円	総便益 <small>(残事業)/(事業全体)</small> 804/804億円 走行時間短縮便益：688/688億円 走行経費減少便益：81/81億円 交通事故減少便益：34/34億円				
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=0.95～1.1（交通量 ±10%） 事業費：B/C=0.97～1.1（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=0.95～1.1（事業期間±20%）						
事業の効果等						
①広域交通ネットワークの形成 ・九州北西部の地域経済活性化に大きく寄与する。 ・沿線には玄海原子発電所があり、緊急時の避難路として設定されているほか、災害時には九州横断自動車道とダブルネットワークを形成する。						
②観光振興の支援 ・北松地域には多くの観光施設があり、西九州自動車道の整備に伴い福岡県からの来訪者は増加傾向にある。松浦佐々道路の整備により福岡方面からの来訪者の更なる増加が期待される。						
③地域産業の支援 ・西九州自動車道の整備により、周辺市町へのアクセスが向上することで、新たな企業立地や雇用の創出など、産業や地域の活性化が期待される。 ・平戸産しいたけ等農水産物の輸送効率化など、地域産業の活性化が期待される。						
④広域連携の支援 ・平成31年4月に佐世保市を連携中枢都市（中心市）とした11市町の連携中枢都市圏が形成されており、西九州自動車道の整備により、更なる連携強化が期待される。						
⑤生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減（CO ₂ , NO ₂ , SPM削減）						
関係する地方公共団体等の意見 平戸市をはじめとする8市4町で構成される西九州自動車道建設促進期成会（会長：伊万里市長）や、3県1市で構成される西九州自動車道建設推進協議会（会長：長崎県知事）等により早期整備の要望を受けている。（令和元年10月） 県の意見： 一般国道497号である西九州自動車道は、九州西北部の主要都市間の連携強化を促し、地域経済の発展、地方創生の実現に大きく貢献する重要な幹線道路となっています。 このうち、事業中区間は、福岡方面からのアクセス時間の短縮に伴う観光客の増加や工業団地への企業進出に伴う新たな雇用の拡大、農水産物等の輸送コストの削減など、さまざまな効果が期待される道路であり、その完成に大きな期待を寄せているところです。 このような状況であることから、「対応方針（原案）」のとおり事業を継続し、1日も早い全線完成に向けて取り組んでいただきますようお願いいたします。						

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は近年減少傾向にあるものの、一世帯あたりの自動車保有台数は増加傾向で、長崎県や九州全体に比べ多く、自動車交通への依存度は高い。

並行現道（国道204号）の交通量も増加傾向であり、依然として事業の必要性は高い。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成26年度に事業化、用地進捗率約29%、事業進捗率約14%（平成31年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

トンネル支保及び補助工法の決定、土砂受け入れ地の変更、橋梁下部工基礎形式の変更、用排水路の統廃合

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。